

2004年6月9日

旦那君はいつもと同じように出勤していました。

旦那君は、派遣に似た感じの仕事をしていましたので、週に1回、新宿にある本社のオフィスによってから帰宅していました。

この日はちょうど、本社の新宿オフィスに寄る日でしたので、帰りが遅くなると言っていました。

午後8時頃に一度、旦那君から連絡があり、午後10時頃に今度は私の方から連絡をしました。

「今お店に入って、これから会社の人と食事してから帰る」

「了解。じゃ、帰るときにまた連絡頂戴。気をつけてね」

「わかった」

このあと、私はテレビを見ながら子供に母乳をあげていました。

そして午後10時30分頃、電話が鳴りました。上記の通り、私は授乳中だったので、電話に出れませんでした。(家にはまだ子機がないんです)

いつもこの時間頃に、実家からよく電話が掛かってきていたので、多分それだろうと

思っていました。

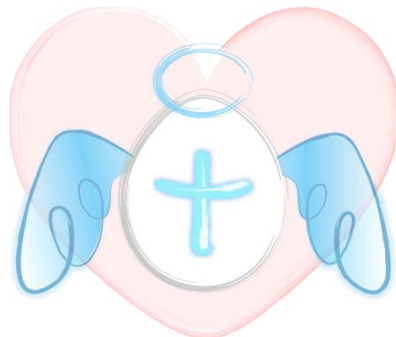
1回目の電話が鳴り、すぐに2回目の電話が鳴りましたが、それにも出ませんでした。

午後11時ごろ、授乳も終わり一息ついた頃、また電話が鳴りました。出ると、旦那君の実家からでした。

旦那君が、食事中に急に倒れ、救急車で運ばれたと言う電話でした。

一瞬、頭が真っ白になり掛けました。その反面、非常に冷静に話を聴いている自分もいました。

# 2004年 ブルガダ症候群 発覚



新宿の病院に運ばれ、危険な状態なので、直ぐに病院に来て欲しいと搬送先の病院から連絡があったと言われました。

ただ、まだ子供が小さかった（漸く生後1ヶ月）ので、私は実家で待ち、旦那君の両親と旦那君の二番目のお兄さんが病院に向かいました。

午前1時頃、お兄さんから電話がありました。

「落ち着いて聴いてね」

そう言われ、一瞬、最悪の結果が脳裏を過ぎりました。が、一命は取り留めたと聴き、心底安心したのを憶えています。

お義父さん達が、到着した病院で聴いたのは、次の通りでした。

- 午後10時半頃、食事中に旦那君が急に倒れ、意識不明の状態に陥ったため、救急に連絡。
- 救急車が到着した頃には心拍・呼吸とも停止状態で、救急車内での心電図のから、心室細動を確認。
- 搬送先の救急救命センターにて除細動処置（電気ショック）により、蘇生。
- 119番通報から旦那君の蘇生までに、約21分掛かったため、脳へのダメージがかなりあるだろうとの判断から、蘇生後、脳低体温療法を実施。

とにかく旦那君が生きているというだけで、良かったと思いました。

## 2004年6月10日

旦那君が搬送されたのは、新宿にある東京医科大学病院でした。救急救命センターの面会時間は、12:30~13:00、18:30~19:30の2回だけで、それ以外の時間は面会出来ませんでした。

この日は、1番目のお兄さんとお義母さん、そして私の三人で行きま

した。

脳低体温療法の旦那君を見るのは、本当に辛かったです。

麻酔で眠っているので意識はなく、鼻には管が入り、呼吸器を着けた状態で、ベットに横た

わっていました

脳低体温療法の為、身体は冷たく、少し硬かったです。

身内に不幸があった人は判ると思うのですが、亡き人の感触に似ていました。

ピッピツという心電図の音と、シュー、シューという呼吸器の音。腕に刺さった、沢山の点滴。

今でも、旦那君の寝顔を見て思い出してしまうことがあり、その度に胸が詰まります。

脳低体温療法は、脳には優しいけれど、反面内臓への負担は大きいそうです。その為、治療時間は24時間が限界だそうです。

とにかく目覚めないことには、脳にどれ位障害が残っているのかなどは判らないと言われました。

また、蘇生までに時間が掛かったので、最悪の場合、目覚めない可能性もあると言われました。

お義母さんは身体がそれ程丈夫でない為、夕方の面会にはひとりで行きました。

看護婦さんが、何でも訊いて下さいねと言ってくれて、嬉しかったです。

私ができる事といえば、祈る事と、とにかく声を掛け続ける事だけでした。

目が醒めることを信じ、祈り、他愛の無いことを旦那君に話し続けました。

自分の事や子供の事。これまでの事、そしてこれからの事。

とにかく楽しいことを、ずっとずっと話し続けました。

## 2004年6月11日

脳低体温療法が終わり、徐々に体温を戻していく処置をしていました。脳低体温療法時、34度位に保たれていた体温を、少しずつ元の体温に戻していくとのことで、この日は35度を目安に戻していました。先生の話だと、こちらの思い通りに進んでおり、脈拍・血圧ともに安定していると説明されました。

明日、徐々に麻酔を切り、旦那君が目覚めるのを待つとの事でした。

## 2004年6月12日

多分、この日の感動は、一生忘れないと思います。

昼の面会時、病室に入ると、旦那君の呼吸器が外れていました。声を掛けると、目を開けて、私を見てくれました。次の瞬間、私は心から笑って旦那君に抱きついていました。

私が声を掛けると、口を開けて、私を呼んでくれました。実際は声が出ず、「あー、うー」状態でしたが、口の形から推測して、私の名前を言っていると判りました。私のことも、生まれた子供のこともちゃんと判っている様子で、本当に、本当に嬉しかったです。

夕方の面会の時には、ベットが移動していました。低体温だった反動で、熱が出ていました。高熱がでることは、前もってお医者様から説明を受けていましたので、それ程気にはなりませんでした。高熱であることと、鼻から入った管が気持ち悪いこと、そして麻酔がまだ完全に切れていないのとで、旦那君はボンヤリしていました。沢山の点滴をしていて、そのため手を固定されていました。それが嫌

だったのか、しきりに腕を動かし、外そうとしていました。

## 2004年6月13日～20日

最初のうちは、まだ熱でぼうっとしていることが多かった旦那君ですが、再度ベットが移動した頃には、随分意識がはっきりしていました。15日からは、食事が摂れるようになりました。この頃になると、しっかり目覚め、会話も出来るようになっていました。

意識がはっきりしてから、3～4日間は、脳機能障害がありました。心肺停止からくる低酸素脳症とのことで、記憶が無くなっていたり、飛んできていたりしました。

具体的には、

- 自分の年を50～60代だと思っていた。
- 娘の年齢が分からなかった。
- 夢と現実の区別が付かない。

といった感じでした。

それでも、蘇生までに掛かった時間を考えれば、これ位で済んだのは本当に奇跡的だと、色々な方から教えられました。もしかしたら一生、目が醒めないかもしれなかった事を考えれば、本当に運が強かったのだなと、改めて思いました。

旦那君の容態が多少なりとも落ち着いたので、ネットで『心室細動』を調べ始めたのが、ちょうどこの頃です。ブルガダ症候群という病気も、心室細動を調べている過程で知り、自覚症状などから「もしかしたら……でも、まさかなあ……」と、思っていました。そして先生から、「ブルガダ症候群かもしれない」と告げられ、ああ、やっぱりそうだったのかという気持ちでした。前もって調べたのと、1番最悪だった状態を乗り切ったのとで、取り

乱したり落ち込んだりはしませんでした、「キツイなあ」と感じたのも、正直な思いです。

一度心室細動が起こってしまったので、おそらく ICD（植込み式除細動器）を入れることになるとの説明も、この時ありました。

脳機能障害が見られたので、先生の方から、『高圧酸素療法』をしてみようという話になり、6月21日から東京医科大学八王子医療センターに転院となりました。

## 2004年6月21日

高圧酸素療法の為に、東京医科大学八王子医療センターへ転院。ドクターカーに乗り、新宿から病院のある八王子へ移動しました。ドクターカーには、万が一に備えてお医者様が1人同伴し、心電図などを付けての移動となりました。渋滞なども無く、1時間ちょっとで病院の方に着きました。

この日から一般病棟に移動となったので、旦那君も随分（気持ち的に）楽になったようでした。

退院後、旦那君に聞いたところ、20日までの記憶は殆ど無いそうで、覚えているのはこの日からとの話でした。17日からは、旦那君の様子は一見した所、普段通りに近い状態だったので、これには正直驚きました。

高圧酸素療法の説明などを聞き、この日は帰りました。

そういえばこの日、旦那君とすっかりくつろいでいたら、教授と研修医十数名といった感じの回診があり、まるで『白い巨塔』のようでした（笑）週刊誌を読んでいたり（旦那君）差し入れに持ってきたチーズケーキ

を食べていたり（私）していたので、ちょっと恥ずかしかったのを覚えております。

## 2004年6月22日～27日

高圧酸素療法を、計3回行いました。ワンクール5回で、効果が出来ればもうワンクール行うとの事でした。この辺りからは殆ど以前と変わらない様子で、記憶も出来るようになり、徐々に意識もすっきりしていったようでした。

## 2004年6月28日

高校時代、専門学校時代の友人が、お見舞いに来てくれました。高校の友人が7名、専門学校の友人が8名の、総勢15名（笑）。偶然同じ日に来てくれることになり、前半は高校、後半は専門の友人たちと久しぶりに歓談しました。楽しかった～。

倒れた次の日に、メールなどで旦那君の症状を知らせていたので、あまりの回復っぷりに驚いていました。我が家と同じ時期に、奥様が出産した友人もいて、親ばか話に盛り上がっていました。

## 2004年6月29日

お見舞いのお休み日でした。この時期、疲れが溜まっていたのが風邪を引いてしまいました。その為、今後のことも考えてこの日は休日にし、久しぶりに愛娘と一日のんびり寝て曜日でした。

お見舞いに行っている間、愛娘は実家の母や、救援に来てくれる姉に面倒を見てもらっており、家に帰る頃には胸が張って痛かったです。特に救急救命にいた間（6/10～6/21）は、午前11時には家を出て、帰宅は午後9時近くだったので、途中でトイレなどで乳を搾ったりし、

中々大変でした（苦笑）  
母や姉、そして幼き愛娘に心から感謝です。本当に、本当にありがとう！

### 2004年6月30日

この日で高圧酸素療法が終了しました。改善が見られ、これ以上の治療は必要なしとのことで、翌日、再度新宿の方に転院とのことでした。

### 2004年7月1日

本格的に心室細動の原因究明及び治療をはじめめる為、再度、新宿の東京医科大学に転院しました。  
今回は民間の医療車にて八王子～新宿に移動しました。今回も、行きと同様に心電図、お医者様も同伴して頂きました。  
何事もなく、また渋滞にも巻き込まれず、順調に転院できました。

夕方から、今後のスケジュール等の説明を受けました。  
電気生理学的検査やカテーテル、MRI など、結構盛り沢山の内容でした。

### 2004年7月2日

サンリズム負荷テストを行いました。  
この検査は、「サンリズム」という薬を投与し、心電図を見るというものでした。  
サンリズムは抗不整脈剤の一種で、安全な薬なのですが、ブルガダ症候群の人に使用すると、逆に不整脈を誘発してしまうそうです。  
また、心電図に特徴的な波形が出るらしく、ブルガダ症候群の識別にこの検査が行われるそうです。

### 2004年7月3日～5日

レート・ポテンシャルや、ヘッドアップティルト試験を行いました。

レート・ポテンシャルは、長時間心電図を着けて、波形を撮る検査…  
…だったと思います。  
ヘッドアップティルトは、足の付いたベッドに横になり、15分間その状態のあと、ベッドごと垂直状態になり、血圧や脈拍の変化や失神が起こるかどうかを30分間様子を見る検査でした。この検査では、「神経調節性失神」があるかどうか判るそうでした。  
自律神経が上手く働かないと、この神経調節性失神が起こりやすいそうです。

### 2004年7月6日

1番大きな検査である、心臓電気生理検査（EPS）を行いました。  
これは、カテーテルを心臓の内部近くまで進め、心臓の電気信号を記録・解析することで、心臓の電気信号の状態を調べる検査だそうです。  
心臓の電気信号は、脈拍（＝ポンプ機能）をコントロールしていて、ブルガダ症候群は、この電気信号系統に異常があり、不整脈が起こりやすくなるらしい……です。

また、心臓に電気刺激を加え、不整脈が誘発されるかどうかのテストも行います。  
通常なら、不整脈が誘発されることは無いのですが、ブルガダ症候群患者の場合は、ちょっとした電気刺激で、不整脈が誘発されてしまうそうなのです。  
その為、あらかじめ除細動（＝電気ショック）の準備をして、検査に臨みます。

ちなみに旦那君は、この検査時にやっぱり誘発され、そして麻酔が効くより先に除細動処置を行われ、カテーテルがトラウマになったそうです。  
こ、怖い……Σ（「□」；）

### 2004年7月7日

結婚二周年でした！

行きがけに小田急でケーキを買って、簡単なお祝いをしました。  
この日は特に検査もなく、のんびりと過ごしました。

## 2004年7月8日

心MRI検査を行いました。  
この検査は、ブルガダ症候群ではなく、心筋症かどうかの識別検査の一環で行いました。

7月1日の先生の話で、「1番濃厚なのがブルガダ症候群、ただ、心筋症という可能性もある」と説明を受けました。  
この、心筋症の可能性を調べると言う意味で、心MRI検査、そして冠動脈造影検査も行いました。

## 2004年7月9日

冠動脈造影検査を行いました。  
6日に行ったEPSのおかげで、かなりカテーテルが怖かったらしく、安定剤を処方してもらったそうです。  
この検査で、ブルガダ症候群かどうかの検査が、全て終わりました。

## 2004年7月10日

検査結果の説明がありました。  
検査の結果、サンリズム負荷テスト、レート・ポテンシャル、ヘッドアップティルト試験、EPSにて陽性の結果が出ました。  
心MRIの方は、特に問題はありませんでした。冠動脈造影検査で、若干の血管のれん縮が確認できてしまいました。将来的に、「血管れん縮性狭心症」になる可能性が、ごくわずかですが、あるとの事でした。  
ただ、今回の心室細動の原因とは、おそらく無関係であろうとのことでした。

これらの結果から、ほぼブルガダ症候群であるとの結論に至りました。  
来週、ICDの植込み式手術をおこなうとの説明があり、ようやく先が見えてきたぞ！と感じ、嬉しかったです。

## 2004年7月11日～15日

全ての検査が終わり、植込み手術を待つ一週間でした。  
12日に、旦那君の両親を交えて、検査結果や今後の説明を受けました。

この週は、基本的にはのんびりと過ごしていました。主に、退院後のことを話したりしてました。  
これからの事とか、心構えみたいなこととか。

## 2004年7月16日

ICDの植込み手術の日でした。  
旦那君の両親と一緒に、手術の終わりを休憩ロビーで待っていました。  
表面上は落ち着いていましたが、内心はドキドキでした。  
大丈夫、大丈夫。きっと大丈夫。と、時計と睨めっこをしながら待っていたように思います。

無事に手術は終わり、動作チェックも成功し、あとは最終動作チェックと退院を待つだけだ！と、心からホッとしたのを覚えています。

## 2004年7月17日

朝には病室に戻っていて、元気そうでした。  
「(ICDを植え込んだ所を)触ってみる？」と言ってくれたので、お言葉に甘えて触らせてもらいました。  
四角く膨らんでいて、「あ、ここに入ってるんだ」と、素直に思いました。

肩の荷が降りた感じでした。そして同時に、気持ちを引き締めなおし

た日でした。

## 2004年7月18日～22日

この週も、特にすることもなく、お見舞いに行つては他愛ないことを話し、週刊誌を読み、呑気にのんびりと過ごしました。

そういえば、救急救命の時に世話になった先生が、ほぼ毎日様子を見に来てくれて、何だか嬉しかったです。

私が毎日居たりしたので、今でも忘れないのが、「本当にラブラブですわね」といった趣旨のお言葉を頂いたことです。

ちなみに八王子センターでも言われました（笑）

## 2004年7月23日

ICDの、最終動作テストがありました。

結果は無事に動作したとの事で、27日に退院出来ますとのことでした。

## 2004年7月24日～26日

友達がお見舞いに来てくれたり、そしてお見舞いの定番ともいえる「丸ごとメロン」を貰ったりと、退院に向けてウキウキした気持ちで過ごしていました。

あとは、すっかり埃っぽくなった自宅の、空気の入れ替えとか掃除とかをした……ような気がします（苦笑）

## 2004年7月27日

退院の日でした！

掛かった費用に、覚悟はしていましたが驚き、そしてかなり緊張しつつ、地下1階のキャッシュロビーから1階の会計へ早歩きをしました。あんな大金持って歩いたのは、人生はじめてでした（笑）

退院に際し、お義兄さんが、自動車で迎えに来てくれたのですが、旦那君は当初、電車で帰るつもりだったそうです。

本屋とかヨド〇シとか、久しぶりの外の空気を堪能したかったそうです。当然ですが、即効で却下しました（笑）

二ヶ月近く入院していたのでやっぱり、随分と体力が落ちていました。久しぶりに娘に会い、あまり表情には出しませんでしたが、やはり嬉しそうでした。

身体の事などを考え、8月20日までは自宅療養にしたので、ゆっくりゆっくり、体力や生活リズムを戻そうねと話しました。

## 2004年 退院直後

退院祝いで、高校や専門学校時代の友人が、自宅に集まってくれたりしました！

久しぶりに、ほんの少しだけ日本酒を呑んだり、美味しい魚を食べたり、楽しくて嬉しかったです。

退院後一週間は、旦那君も基本的には家で過ごし、夕方とかにリハビリがてら、お散歩や夕食の買出しに行く日々でした。

専門学校卒業以来の、夏休みの気分でした（笑）

ゲームをしたり、寝て曜日だったり、ちょっと遠出したりとか。

退院後暫くは、ICD を入れた方の腕をあまり動かさず、結構大変でした。

特に大変だったのが、娘の抱っこでした。

2週間位は、まず私がお風呂に入り、全身洗って出てきて、半濡れ状態で娘の服を脱がして再度入浴、そして一緒に出てきてまず娘を着替えさせて、おっぱいあげて、腰が冷えて腰痛になって……といった感じでした。

日常生活で困ったことは、私達は特に感じませんでした。

例えば携帯電話。これは、ICD から 22cm 以上離せば特に問題なく使えます。

それより1番気にしたのは、娘の動きでした。

ICD に物理的な衝撃がいかないように、抱っこの際には、娘の一挙手一動に注意を払ったり。

それと、寝相の悪い旦那君を、夜に見守ったりとかをしてた位です。

正直、1番気に掛っていたメンタル面ですが……。

幸い旦那君は、『細かいことは気にしない。どうにもならないことも気にしない』といった

性格なので、すごく落ち込んだりとかはしませんでした。

でも、心の深い部分はどうかは、私にはやはり解りませんので、極力話し合いをするように

しました。

今後のこととか、娘のこととか。